

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2009年7月)

発表日2009年9月8日(火)

～経常収支の回復傾向は継続～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 小杉 晃子

T E L : 03-5221-4548

(単位: %)

		原数値 経常収支 (億円)						季調値 経常収支 (億円)					
		貿易・サービス収支				所得収支		貿易・サービス収支				所得収支	
		貿易収支		サービス収支				貿易収支		サービス収支			
		前年比	前年比	前年比	前年差	前年比	前年比	前期比	前期比	前期比	前期差	前期比	前期比
08	1月	11637	1.8	赤字	▲ 36.9	▲ 34	7.2	18369	7.9	111.1	47.6	531	▲ 12.9
	2月	25142	4.8	▲ 9.2	▲ 7.0	▲ 168	14.3	15693	▲ 14.6	▲ 53.8	▲ 41.3	187	4.3
	3月	29024	▲ 11.7	▲ 33.3	▲ 29.3	▲ 788	6.6	18488	17.8	52.9	36.6	▲ 323	5.1
	4月	13859	▲ 29.4	▲ 59.1	▲ 41.9	1347	▲ 17.1	17238	▲ 6.8	26.9	▲ 1.8	1338	▲ 13.2
	5月	19810	▲ 6.8	16.2	▲ 0.1	687	▲ 12.4	18466	7.1	9.5	9.5	▲ 114	3.6
	6月	4716	▲ 68.9	▲ 99.8	▲ 81.5	▲ 440	25.1	14633	▲ 20.8	▲ 80.8	▲ 54.0	▲ 976	11.1
	7月	15693	▲ 15.2	▲ 81.5	▲ 60.0	926	8.4	15960	9.1	224.3	37.6	1391	▲ 7.7
	8月	10610	▲ 49.0	赤字	赤字	761	▲ 5.1	9460	▲ 40.7	赤字	赤字	▲ 723	▲ 5.7
	9月	15646	▲ 46.5	▲ 89.6	▲ 81.9	77	4.9	15060	59.2	黒字	黒字	257	8.1
	10月	9796	▲ 55.6	赤字	▲ 88.1	365	▲ 15.9	10593	▲ 29.7	赤字	▲ 92.5	162	▲ 7.7
	11月	6236	▲ 63.4	赤字	赤字	643	▲ 15.4	4371	▲ 58.7	628.1	赤字	▲ 627	▲ 5.1
	12月	1629	▲ 89.7	赤字	赤字	215	▲ 27.5	5922	35.5	▲ 29.0	▲ 51.6	▲ 547	▲ 4.1
09	1月	▲ 1327	赤字	486.4	赤字	392	▲ 31.5	1568	▲ 73.5	60.2	136.9	342	▲ 13.9
	2月	11348	▲ 54.9	▲ 92.5	▲ 80.9	▲ 263	▲ 34.1	6956	343.6	▲ 68.4	黒字	▲ 517	▲ 1.5
	3月	15346	▲ 47.1	▲ 87.1	▲ 89.8	782	▲ 13.3	9392	35.0	▲ 32.2	87.4	605	24.2
	4月	6305	▲ 54.5	赤字	▲ 69.2	▲ 785	▲ 18.5	9663	2.9	黒字	702.1	▲ 256	▲ 13.7
	5月	13018	▲ 34.3	▲ 52.2	▲ 22.1	▲ 1447	▲ 24.5	10158	5.1	240.5	52.9	▲ 312	▲ 3.1
	6月	11525	144.4	25473.7	141.8	1309	27.7	17988	77.1	330.3	82.7	1721	19.6
	7月	12656	▲ 19.4	78.0	42.3	▲ 646	▲ 24.2	11590	▲ 35.6	▲ 58.5	▲ 35.4	▲ 1250	▲ 18.6

(出所)財務省「国際収支状況」

○7月の経常収支は前年比▲19.4%

7月の経常収支は前年比▲19.4%の1兆2,656億円(原数値)と、6ヶ月連続の黒字となった。貿易収支は、海外での在庫調整の進展や各国の景気対策効果などにより、輸出の回復が持続していることに加え、原油価格下落を背景に、輸入金額が輸出金額を上回るペースで減少したことで、黒字幅は拡大した。一方、所得収支は、証券投資収益の受取の減少幅が支払のそれを上回ったことなどから、2ヶ月ぶりに黒字幅は縮小した。

7月の経常収支は、所得収支の黒字幅が縮小したことで単月では2ヶ月ぶりの前年割れとなったが、輸出の回復に伴って貿易収支の改善は続いており、基調としてみれば回復傾向にあるといえよう。

○貿易収支の改善は継続

経常収支の内訳をみると、貿易収支は4,373億円(前年比+42.3%)と6ヶ月連続で黒字となった。世界的な在庫調整の進展や各国における経済対策の効果によって、輸出は、アジア向けを中心に回復傾向が続いている。他方、輸入は、内需の低迷や昨年の原油価格高騰の反動の影響を受けて、減少が続いている。輸入の減少幅が輸出のそれを上回った結果、全体として貿易収支の黒字幅は拡大した。

サービス収支は▲2,883億円(前年比+28.9%)と、2ヶ月ぶりに赤字幅が拡大した。雇用・所得環境の悪化

による出国日本人数の減少などから、「旅行」の支払は減少したものの、「其他サービス」が2ヶ月ぶりに赤字に転じたため、全体として赤字幅が拡大した。

所得収支は1兆2,468億円(前年比▲24.2%)と、2ヶ月ぶりに黒字幅が縮小した。円高や海外金利の低下を背景に「証券投資収益」が減少したことが、黒字幅縮小に影響したと考えられる。

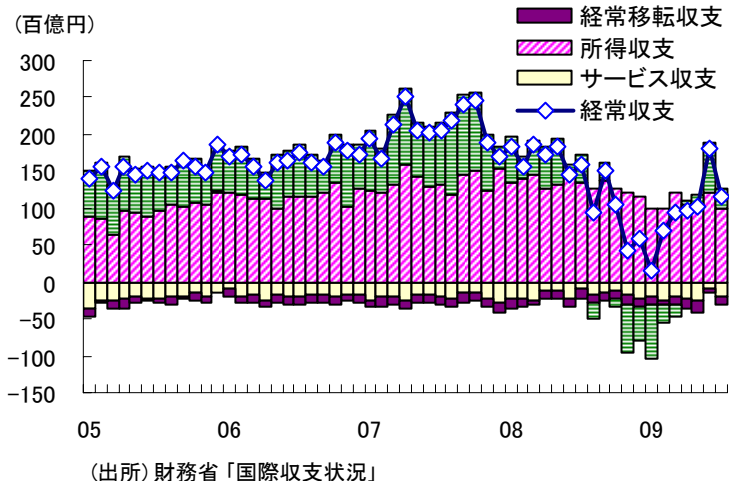
○先行き貿易収支の改善により、経常収支は回復傾向が続く見通し

経常収支の先行きについて展望すると、まず貿易収支に関しては、輸出の回復が継続していることや、原油価格下落により輸入金額の減少が続くと思われることから、今後も増加傾向が続くだろう。8月上中旬の貿易統計の結果をみても、輸入(前年比▲41.9%)が輸出(同▲37.1%)を上回るペースで減少している。また、輸出に先行する傾向があるISM製造業景気指数(新規受注)やOECD景気先行指数(6ヶ月前比年率)などの指標も、比較的速いペースで改善していることから、輸出は引き続き増加傾向で推移する可能性が高い。

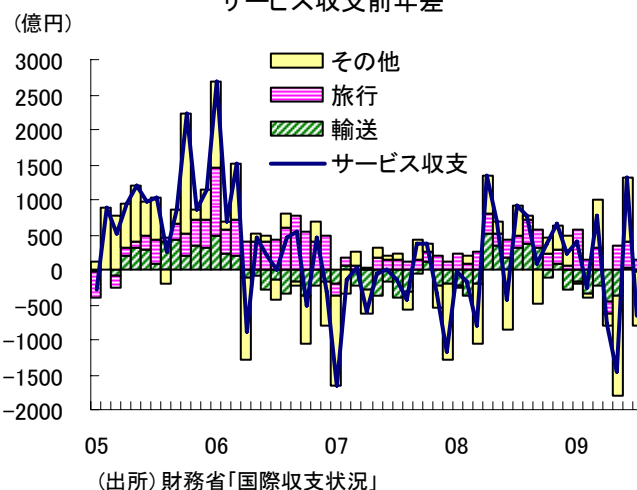
次に所得収支は、世界経済が回復に向かうもと、直接投資収益や配当金受取などが持ち直していくことが見込まれる一方、低金利が持続していることから債券利子の受取が低迷する可能性が高いことや、為替レートが円高傾向にあることなどを考慮すると、回復力に乏しい動きが継続されよう。

以上を踏まえると、先行き経常収支は、貿易収支の改善を主因として、回復傾向が続くと予想される。

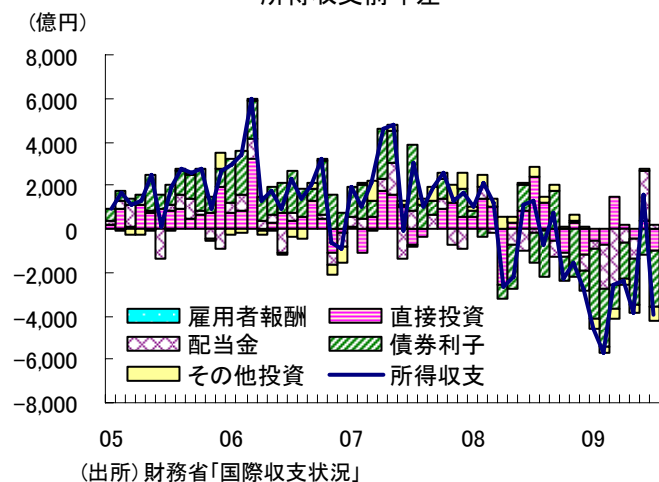
経常収支(季調値)



サービス収支前年差



所得収支前年差



実質輸出とISM製造業新規受注

